
総 説

青年期におけるアジア系移民の家族内の文化的不一致と
心理的問題についての研究動向
—青年期の在日コリアンに対する心理的介入への示唆—

Review of acculturation discrepancies and mental health problems among
adolescents in Asian immigrant families
—Acculturation discrepancies and mental health problems—

佐々木 三紗 (早稲田大学大学院人間科学研究科)¹, 金子 健一郎 (早稲田大学大学院人間科学研究科)²,
桂川 泰典 (早稲田大学人間科学学術院)³

Misa Sasaki (Graduate School of Human Sciences, Waseda University)¹,
Kenichiro Kaneko (Graduate School of Human Sciences, Waseda University)²,
Taisuke Katsuragawa (Faculty of Human Sciences, Waseda University)³

(Received : August 8, 2022 ; Accepted : December 9, 2022)

Abstract

The mortality rate of Koreans living in Japan is substantially higher than that of the Japanese. Additionally, they are more likely to suffer from psychological problems, such as depression. Underlying this is the issue of acculturation discrepancy within families. In this study, we conducted a review to examine the influences of acculturation discrepancy on psychological problems within Asian immigrant families, especially in adolescents. Furthermore, we discussed intervention options. Parent-child communication was subsequently identified as a factor that moderates the impact of acculturation discrepancy on psychological problems within Asian immigrant families. However, few intervention studies have focused on parent-child communication, indicating that this area requires additional empirical research.

Key Words : acculturation discrepancy, Asian immigrants, depression, Koreans living in Japan,
parent-child communication

1. 問題と目的

1.1. 日本在住外国人における在日コリアンの現状

日本在住外国人における在日コリアン^[1]数は、1980年頃までは、およそ60万人程度おり、在住外国

人の80–90%を占めていた⁽¹⁾。最新の統計では、45万人程度 (約16%) となっており⁽²⁾、在住外国人の総数の増加に伴って、比率自体は減少している。しかし、その数は依然として多く、また日本政府の同

¹ Misa Sasaki (*Graduate School of Human Sciences, Waseda University*) : w.m-0568@ruri.waseda.jp

² Kenichiro Kaneko (*Graduate School of Human Sciences, Waseda University*) : ken_ichir0@fuji-waseda.jp

³ Taisuke Katsuragawa (*Faculty of Human Sciences, Waseda University*) : katsuragawa@waseda.jp

化政策によって帰化する在日コリアンも多数いることから、特に在日3世、4世の世代は、日本社会に深く根づいている現状がある⁽³⁾。

在日コリアンの日本国内における死亡率は日本人より有意に高く、自殺死亡率は母国より高いことがわかっている⁽⁴⁾。また、自殺者の大部分はうつ状態・うつ病に罹患していたと指摘されており⁽⁵⁾、在日コリアンが日本社会に深く根づきながらも、心身の健康上の問題を抱えていることが伺える。

1.2. 移民が抱える問題と支援の困難性

一般に、移民は様々な健康上の問題を抱えやすいとされるが、心理的問題に影響を与える要因として、収入、社会経済的地位の低さ、ソーシャル・サポートの低さなどが指摘されている⁽⁶⁻⁷⁾。日本におけるこれらの問題に対する支援として、医療領域では、医療保険や無料低額診療制度、医療機関での言語支援⁽⁸⁾、教育領域では、大学や地域の行政機関が主宰する国際交流団体、支援団体が連携して行う学習支援活動⁽⁹⁻¹¹⁾などが挙げられる。一方、直接的な心理的支援としては、認知行動療法 (cognitive-behavioral therapy) のグループ療法の実践などが散見されるが⁽¹²⁾、多くは草の根の実践であり⁽¹³⁻¹⁴⁾、統制された介入の報告は極めて少ない。

移民への心理的支援が難しい理由の1つとして、心理的問題悪化の背景にAcculturation discrepancyと呼ばれる家族成員内で生じる困難があることが挙げられる⁽¹⁵⁾。Acculturation discrepancyとは、文化変容度の家族内差であり、一般的に親子間の文化的不一致を指す⁽¹⁵⁻¹⁶⁾。

たとえば、日本語力が乏しい母親に対して子どもが苛立ったり、進学に関して親が適切なアドバイスをできない時、子どもが親よりも上手に日本語を話し日本文化に親和的になることで、親の子どもへの権威づけは難しくなり、親子間の葛藤が引き起こされやすくなることが指摘されている⁽¹⁾。このような親子の葛藤は、子どもの抑うつ症状を悪化させることが知られているが⁽¹⁷⁻¹⁹⁾、移民などのエスニックマイノリティの子どもは、このような家族内の問題が生じて外部に助けを求める可能性が低いことが分かっている⁽²⁰⁾。助けを求められない理由として「個人的な内容がゆえに自分自身で対処しなければならないという認識」、「内容が漏洩してしまうのではな

いかという心配」などが挙げられており⁽²¹⁾、家族内で生じた問題について、エスニックマイノリティの子どもがその問題性を認識し、家族外の他者に助けを求めることは難しい現状がある。

また、文化的不一致の解消における最も健全なパターンは、青年が少なくとも親と同じくらい親が帰属する文化遺産 (たとえば音楽や食事など) に愛着を抱いていることとされているが、①子どもが自分の親の帰属する文化に触れる機会が少ない、②子どもは親よりも早く文化変容し、伝統文化から距離を置くことが多い⁽²²⁾ことから、その一致を目指すことは容易ではない。そのため文化的不一致それ自体を解消させることが難しい場合は、文化的不一致の心理的問題への影響を減弱させることが、移民の心理的支援における介入ポイントになるといえる。

1.3. 在日コリアンにおける文化的不一致と心理的問題

在日コリアンにおいても、社会文化的な背景や家庭環境といった文化的不一致に関する要因が臨床的なリスクとなりうることが示唆されている⁽²³⁾。文化的不一致の促進要因の1つに、親による過干渉、過保護の問題や、しつけの厳しさといった問題が挙げられる。在日コリアンの養育者は、受け入れ先の社会への警戒心や不信感から子どもに過干渉、過保護となり、これらは、子どもに対するしつけの厳しさや、達成要求の高さといった形で現れることから、特に青年期の子どもにおいて養育者に対する葛藤が強烈なものになることがある⁽²⁴⁻²⁵⁾。このような親子関係が、親に対する依存と自立の葛藤が先鋭化する青年期に、在日コリアンを情緒不安定にするリスクを高め、同一性の拡散、実行力の欠如、対人的過敏性を強めるリスクを高める可能性が指摘されている⁽²⁵⁾。

また、在日コリアン2世以降の世代に特有の葛藤や社会適応の問題も挙げられている⁽²⁶⁾。在日コリアン1世の経験は戦争及び日本の植民地支配と連なっており、日本社会という「新しい秩序」に対抗する意味で、たとえば祖先の祭祀 (チェサ) を頑なに重んじるなど、儒教的家族と呼ばれる集団の連帯をより一層強化してきた。一方、日本生まれの2世以降の世代になると、日本語だけを話し朝鮮半島に渡ったことがないという者も少なくない。そのため

親より上の世代との文化的不一致が生じるだけでなく、「日本のことしか知らないのに日本人からも受け入れられない」という親より上の世代とは異なる疎外感を体験することも多い^(2, 25)。

このように在日コリアンは、移民としての心理的問題の抱えやすさだけでなく、その民族・歴史的な背景から世代間の文化的不一致が生じやすい。さらに、親子間の葛藤が顕在化しやすい青年期には心理的問題悪化の大きなリスクを有しているといえる。

2. 本稿の目的

ここまで、移民の抱える心理的問題について、特にAcculturation discrepancyと呼ばれる家族内の文化的不一致に焦点をあて、文献レビューを行ってきたが、このような家族の問題を抱えた移民に対する直接的な心理支援に関する研究は乏しい。中でも日本社会に根つきながらも、高い精神疾患の罹患率を有する在日コリアンに関して、特に養育者との葛藤が先鋭化しやすい青年期において家族内の文化的不一致が心理的問題に与える影響性のモデル構築や介入のための要因の検討といった実証的な研究はなされていない。そこで本稿では、家族内の文化的不一致に起因する心理的ストレスの類似性が想定されるアジア系移民の研究動向を整理することによって、在日コリアンが抱える問題に対する介入の糸口を検討することを目的とする。実際に、アジア系移民はヨーロッパ系移民に比べて、うつ病、世代間家族葛藤が高いことが報告されており⁽²⁷⁾、在日コリアンの有する問題との類似性が他の民族と比較して高いことが想定される。

3. 方法

3.1. 文献の抽出

2022年6月1日に文献の検索を行った。Figure 1.に文献検索のプロセスを示した。電子資料の一括横断検索が可能な早稲田大学の学術情報検索エンジン^[2]を用いて、「acculturation」AND「discrepancy」AND「immigration」AND「adolescence」を検索ワードとして、2010年—2022年に出版された査読付き学術論文を抽出した。当該エンジンには2022年7月現在、PubMed, PsycINFO, Web of Science, PsycARTICLESなどを含む4358の論文データベースが存在してい

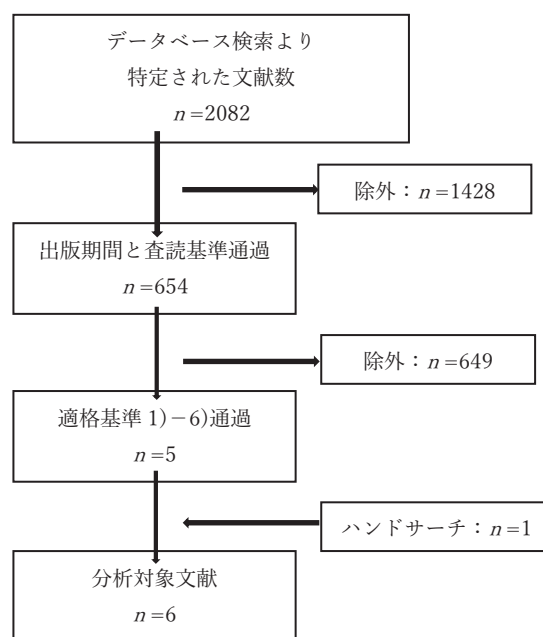


Figure 1. 文献の抽出プロセス

る。検索結果の論文のタイトルおよび抄録を読み、1) 量的研究であること、2) 説明変数に文化的不一致または親子の文化差等の近接する構成概念を含むこと、3) 目的変数に心理的適応に関する指標を含むこと、4) アジア系の移民を対象としていること、5) 青年期を対象としていること、6) システマティックレビューは除外すること（論文の二重計上の防止のため）、を基準としてさらに論文の絞り込みを行った。さらに、抽出された論文の文献リストを確認し、1)–6) の条件を満たした論文をハンドサーチによって、追加抽出した。

3.2. 分類

本研究では、アジア系移民の家族内の文化的不一致に関する葛藤が心理的問題にどのような影響を及ぼすのか、また、介入ターゲットとしてどのような変数があり得るのかを検討した。当該論文において設定されたアウトカムを「目的変数」、それらを説明する変数を「説明変数」として抽出・分類した。また、論文中で心理的問題への影響が確認された変数を「目的変数への影響が確認された変数」として抽出した。

4. 結果

文献検索の結果、条件を満たす6本の論文が抽出された (Table.1)。

4.1. 対象者

対象者の延べ件数は、中国系アメリカ人が2件、アジア系アメリカ人が2件、中国系カナダ人が1件、コリアン系アメリカ人が1件であった。なお、在日コリアンは0件であった。

4.2. 研究方法

質問紙による横断調査が5件、インタビューと質問紙の混合による横断調査が1件であった。なお、介入研究は0件であった。

4.3. 説明変数

測定された説明変数は、「文化的不一致」、「親と子どもの文化的志向」、「文化変容」、「親子間のコミュニケーション」がそれぞれ2件、「親子間葛藤についての話し合い」、「家族内での疎外感」、「文化的不一致に関する行動と価値」、「親子間におけるアジア的価値の格差」、「両親の温かさとコントロールに対する認識」、「家族内の適切な感情表現」、「感情に対する気づきと行動のための感情利用」がそれぞれ1件ずつであった。

4.4. 目的変数

測定された目的変数は、「内在化症状」、「外在化症状」、「侵入的な子育て（親）」、「侵入的な子育ての認識（子ども）」、「子どもの適応」、「問題行動」、「文

化的不一致によるストレス」、「心理的適応」、「子どもと両親との関係」が1件であった。

4.5. 目的変数への影響が確認された変数

目的変数への影響が確認された変数は、「親子間のコミュニケーション」が2件、「両親の温かさとコントロールに対する認識」、「家族内の適切な感情表現」、「感情に対する気づきと行動のための感情利用」が1件であった。

5. 考察

本稿の目的は、家族内の文化的不一致に起因する心理的ストレスの類似性が想定されるアジア系移民の研究動向を整理することによって、在日コリアンが抱える問題への介入の糸口を検討することであった。

文献レビューの結果、在日コリアンを対象とした研究は0件であったことから、在日コリアン特有の特徴を明らかにすることはできなかった。一方で、類似性が想定されるアジア系移民においては、文化的不一致への影響が確認された変数として「親子間のコミュニケーション」がもっとも多く抽出された。コリアン系アメリカ人の親子を対象とした研究では、母親と子どもに文化的不一致がある場合に、攻撃行動等の外在化症状が最も高くなることが示唆された。また、文化的不一致の認識の大きい親子間では、相

Table.1 本研究でレビュー対象となった論文

著者	発行年	対象者(国籍と人数)	研究方法	説明変数(太字：目的変数への影響が確認された変数)
Kim & Park ⁽²⁸⁾	2011	韓国系アメリカ人の母親と子ども (77組)	質問紙(横断調査)	文化変容, 文化的不一致, 親子間のコミュニケーション
Kho, Main, Chung, & Zhou ⁽³²⁾	2019	移民一世と二世の中国系アメリカ人の子ども (239人) とその両親	インタビューと質問紙 (横断調査)	人口統計情報(家族構成, 移住の歴史), 親と子どもの文化的志向
Chung, Zhou, Kho, & Main ⁽³⁸⁾	2021	中国系アメリカ人の家族 (239人)	質問紙(横断調査)	人口統計情報(家族構成, 移住の歴史), 親子間葛藤についての話し合い, 親と子どもの文化的志向
Castillo, Zahn, & Cano ⁽⁴¹⁾	2012	アジア系アメリカ人 (85人)	質問紙(横断調査)	人口統計情報(個人特性：年齢, 性別, 親の収入, 家族の国籍&大学の状況：専攻, 自己報告の成績), 家族内での疎外感, 文化的不一致, 文化変容
Yoo & Miller ⁽⁴⁶⁾	2011	中国系カナダ人 (192人)	質問紙(横断調査)	人口統計情報(性別, 年齢, 学年, 出生地, カナダでの居住年数, 世代構成, 使用言語, 母親との使用言語, 父親との使用言語, 母親の最高学歴), 文化的不一致に関する行動と価値, 両親の温かさとコントロールに対する認識
Park, Vo, & Tsong ⁽⁵⁰⁾	2009	アジア系アメリカ人 (336人)	質問紙(横断調査)	人口統計情報(性別, 年齢, 民族性, 世代, 出生順), 親子間におけるアジア的価値の格差, 家族間の適切な感情表現, 親子間のコミュニケーション, 感情に対する気づきと行動のための感情利用

手に気を使いすぎずに自分の気持ちを話すことができる等の父親とのオープンなコミュニケーションに対する認識が低いほど、内在化症状が高いことと関連した。そして、父親とのオープンなコミュニケーションに対する認識は、文化的不一致と内在化症状の関係を有意に調整した⁽³⁵⁾。アジア系アメリカ人と白人系アメリカ人を対象とした研究では、アジア系アメリカ人の青年は、白人系アメリカ人の青年と比較して、母親よりも父親と問題を話し合うことがより困難であることが示唆されている。さらに、アジア系アメリカ人の青年は白人系アメリカ人とくらべて自尊心が有意に低く、親とのオープンなコミュニケーションが自尊心を予測するひとつの因子であることが明らかになった⁽³⁶⁾。他のアジア系移民の研究においても、文化的不一致は子どもの抑うつ症状と正の相関を示していた。しかし、父親とのコミュニケーションに対する認識について言及している研究は他には見当たらなかった。

コリアン系移民の特徴として、儒教に基づく家族観がある。儒教的家族観においてもっとも権威的な存在である父親との関係は、コリアン系移民の子どもの心理状態に大きく影響することが予想される。さらに、先述のように、在日コリアン1世の経験は戦争及び日本の植民地支配と連なっており、政治的な緊張を有する日韓関係や、日本国内における差別構造が、在日コリアンの家族の凝集性を強め、父親

との関係性が心理的問題に与える影響を強める可能性がある^(2, 25)。以上のことから、父親とのコミュニケーション、およびコミュニケーションの認識の改善は、在日コリアンの文化的不一致による心理的問題に対する緩衝効果を有する可能性があり、臨床的にも、介入可能性のある変数であると推察される。

一方で、移民における父親とのコミュニケーションを活性化させるための介入は見当たらなかった。しかし、アジア系移民ではないために本調査結果からは除外されたが、母親を含めた親子間のコミュニケーションを活性化させることを目的とした、青年と保護者のバイカルチャリズムを促進するための介入モジュールの効果を検討する論文があった⁽⁵⁶⁻⁵⁷⁾。この介入は、キューバ系アメリカ人の青年と親が、青年のグループと親のグループに別々に、あるいは青年と親と一緒に、双方のグループへ積極的に参加するものであり、介入によって行為障害や社会的不適応に効果が認められた。しかし、このような介入がキューバ系アメリカ人のみならず、アジア系移民、ひいては在日コリアンの文化的不一致による心理的問題をどの程度軽減するかは不明であった。また、アジア系移民を対象とした介入研究が見当たらず、父親との関係に焦点をあてた研究は皆無であったことから、在日コリアンの父親とのコミュニケーションを活性化させることや、コミュニケーションの認識を変容させることを目的とした介入は、実証

説明変数の尺度(太字: 目的変数への影響が確認された変数)	目的変数	目的変数の尺度
The Asian American Multidimensional Acculturation Scale (AAMAS) ⁽²⁹⁾ , AAMAS ⁽²⁹⁾ , Parent Adolescent Communication Scale (PAC) ⁽³⁰⁾	内在化症状, 外在化症状	Youth-Self Report (YSR) ⁽³¹⁾
Migration History Questionnaire ⁽³³⁾ , Cultural and Social Acculturation Scale(CSAS) ⁽³⁴⁾	侵入的な子育て, 侵入的な子育ての認識, 子どもの適応	Maternal Psychological Control Scale ⁽³⁵⁾ , A modified version of the Issues Checklist ⁽³⁶⁾ , Child Behavior Checklist during the lab visit (CBCL) ⁽³⁷⁾ &TRF ⁽³⁷⁾
Migration History Questionnaire ⁽³⁸⁾ , Parent-child conflict discussion issues checklist, Cultural and Social Acculturation Scale (CSAS) ⁽³⁴⁾	問題行動	Child Behavior Checklist (CBCL) ⁽³⁷⁾ &TRF ⁽³⁷⁾ & Behavior Problem Index(BPI) ⁽⁴⁰⁾
Intragroup Marginalization Inventory (IMI-Family) ⁽⁴²⁾ , Asian American Family Conflicts Scale (FCS) ⁽⁴³⁾ , Psychological Acculturation Scale (PAS) ⁽⁴⁴⁾	文化的不一致によるストレス	Social, Attitudinal, Familial, and Environmental Acculturative Stress Scale (SAFE-R) ⁽⁴⁵⁾
Vancouver Index of Acculturation (VIA) ⁽⁴⁷⁾ , Child Parental Acceptance-Rejection/Control Questionnaire (Child PARQ/Control) ⁽⁴⁸⁾	心理的適応	Adult Personality Assessment Questionnaire (Adult PAQ) ⁽⁴⁹⁾
AVS-R ⁽⁵¹⁾ , AR subscale of the FAD ⁽⁵²⁾ , Affectionate Communication Index ⁽⁵³⁾ , AOS ⁽⁵⁴⁾	子どもと両親との関係	Parent-Adolescent Communication Scale (PCRS) ⁽⁵⁵⁾

的研究の余地があると考えられる。

最後に、本研究における限界と課題について述べる。本研究でレビューした論文は、対象を日本国外のアジア系移民にまで拡張したという点で、今回得られた知見を在日コリアンに対して直接的に適用できるのかについては、慎重に検討する必要がある。在日コリアンにおける父親の存在や、家族内のコミュニケーションが子どもの心理にどのような影響を与えるかについての実証研究、また家族内コミュニケーションが介入対象の変数として社会的妥当性を有するかについては今後の検討が必要である。

6. 研究倫理的な配慮

本研究は、刊行済論文を用いたレビュー研究であるため研究倫理上の配慮は生じない。

7. 利益相反

利益相反の有無：無

註

[1] 本論における「在日コリアン」とは、朝鮮半島にルーツを持ち、日本による植民地政策の影響を直接的もしくは間接的に受けた人々であり、概ね1910年から1945年前後に渡航した者およびその子孫を指す。韓国籍者、朝鮮籍者、日本籍者、およびその他の国籍の人々も念頭においていると同時に、国際結婚によって生まれた、いわゆる「ハーフ」の人々も念頭においている。

(井沢泰樹(2017). 在日コリアンにおける複合的アイデンティティと精神障害—日韓の「ハーフ」で性的少数者である「男性」のライフヒストリーから— 東洋大学人間科学総合研究所紀要, 19, 167-185.)

[2] 早稲田大学図書館. Waseda University Library <https://waseda.primo.exlibrisgroup.com/discovery/search?vid=81SOKEI_WUNI:WINE> (2022年6月1日)

引用文献

(1) 総務省統計局 (2021). 在留外国人統計 (旧登録外国人統計) (2021年6月版) 政府統計の総合案

内 <https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00250012&tstat=000001018034&cycle=1&year=20210&month=12040606&tclass1=000001060399&result_back=1&cycle_facet=tclass1&tclass2val=0> (2022年6月1日)

(2) 額賀美紗子・芝野淳一・三浦綾希子 (2019). 移民から教育を考える ナカニシヤ出版.

(3) 朴成昊(2021). 「在日」と二重のアイデンティティ 日本言語文化, 57, 219-237.

(4) Glimour, Stuart., Hoshino, Haruko., & Dhungel, Midha. (2019). Suicide mortality in foreign residents of Japan. *International journal of environmental research and public health*, 16(17), 3013.

(5) 吉村玲児 (2007). 自殺予防の観点から見たうつ病の治療 精神神経学雑誌, 109(9), 822-833.

(6) Saad, Megan. (2018). Examining the social patterning of postpartum depression by immigration status in Canada: an exploratory review of the literature. *Cham: Springer International Publishing*, 6(2), 312-318.

(7) Choi, Woon Sun. (2012). Personal characteristics, ethnic identity, experience of discrimination, self-esteem, and problem behavior of Korean-Japanese multicultural adolescents. *Korean Journal of Family Welfare*, 7(2), 49-71.

(8) 森田直美・金森万里子・能智正博・近藤尚己 (2021). 日本の在住外国人における医療アクセスが困難な人の特徴とアクセス抑制因子および効果的な支援策に関する混合研究 国際保健医療, 36(3), 107-121.

(9) 徳井厚子 (2012). 外国につながる子どもにとっての地域での学びの意味—大学生ボランティアの語りからみえてくるもの— 教育実践研究(信州大学教育学部附属教育実践総合センター紀要), 13, 91-98.

(10) 田口香奈恵 (2016). 外国につながる子ども達への地域学習支援教室の取り組み—主催者として関わるボランティア大学生の教室に対する評価— 東海大学紀要(国際教育センター), 6, 57-65.

(11) 佐藤郡衛 (2008). 外国につながる子どもの学習支援ネットワーク シリーズ多言語・多文化協働実

- 実践研究, 4, 66-80.
- (12) Kataoka, S. H., Stein, B. D., Jaycox, L.H., Wong, M., Escudero, P., Tu, W., Zaragoza, C., & Fink, A. (2003). A school-based mental health program for traumatized Latino immigrant children. *Journal of the American Academy of Child and Adolescent Psychiatry*, 42 (3), 311-318.
- (13) 金愛慶・津田友理香 (2015). 日本における国際結婚家庭に関する心理社会的支援:在日フィリピン人のDV被害者支援についての一考察 名古屋学院大学論集社会科学篇, 51(4), 95-104.
- (14) 安婷婷 (2020). 多言語による心理支援の現状と課題 コミュニティ心理学研究, 24(1), 15-26.
- (15) Schwartz, S. J., Unger, J.B., Baezconde-Garbanati, L., Zamboanga, B.L., Córdova. David., Lorenzo-Blanco, E. I., Huang, S., Des Rosiers, S.E., Soto, D.W., Lizzi, K.M., Villamar, J.A., Pattarroyo, M., & Szapocznik, J. (2016). Testing the parent-adolescent acculturation discrepancy hypothesis: a five-wave longitudinal study. *Journal of research on adolescence*, 26(3), 567-586.
- (16) Unger, Jennifer B., Ritt-Olson, Anamara., Soto, Daniel W., & Baezconde-Garbanati, Lourdes. (2007). Parent-child acculturation discrepancies as a risk factor for substance use among Hispanic adolescents in Southern California. *Journal of immigrant and minority health*, 11(3), 149-157.
- (17) Kim, S. Y., Chen, Q., Li, J., Huang, X., & Moon, U. J. (2009). Parent-child acculturation, parenting, and adolescent depressive symptoms in Chinese immigrant families. *Journal of Family Psychology*, 23(3), 426-437.
- (18) Weaver, S. R., & Kim, S. Y. (2008). A person-centered approach to studying the linkages among parent-child differences in cultural orientation, supportive parenting, and adolescent depressive symptoms in Chinese American families. *Journal of youth and adolescence*, 37(1), 36-49.
- (19) Juang, L. P., Syed, M., & Takagi, M. (2007). Intergenerational discrepancies of parental control among Chinese American families: Links to family conflict and adolescent depressive symptoms. *Journal of Adolescence*, 30(6), 965-975.
- (20) Boldero, Jennifer., & Fallon, Barry. (1995). Adolescent help-seeking: what do they get help for and from whom?. *Journal of adolescence*, 18(2), 193-209.
- (21) Dubow, Eric F., Lovko Jr, Kenneth R., & Kausch, Donald F. (1990). Demographic differences in adolescents' health concerns and perceptions of helping agents. *Journal of clinical child psychology*, 19(1), 44-54.
- (22) Smokowski, Paul R., & Bacallao, Martica L. (2007). Acculturation, internalizing mental health symptoms, and self-esteem: cultural experiences of Latino adolescents in North Carolina. *Child psychiatry and human development*, 37(3), 273-292.
- (23) 平直樹・川本ひとみ・慎栄根・中村俊哉 (1995). 在日朝鮮人青年にみる民族的アイデンティティの状況によるシフトについて 教育心理学研究, 43(4), 380-391.
- (24) 金沢晃 (2011). 在日コリアン青年の青年期危機と親子関係について—中学生を対象として— ころと文化, 10(2), 159-166.
- (25) 金沢晃 (2012). 在日コリアン青年の青年期危機と親子関係について—高校生を対象として— ころと文化, 11(1), 73-80.
- (26) 志水宏吉・志水睦美 (2001). ニューカマーと教育—学校文化とエスニシティの葛藤をめぐって 明石書店.
- (27) Kalibatseva, Z., Leong, F. T. L., Ham, E. H., Lannert, B. K., & Chen, Y. (2017). Loss of face, intergenerational family conflict, and depression among Asian American and European American college students. *Asian American Journal of Psychology*, 8(2), 126-133.
- (28) Kim, M., & Park, Irene J. K. (2011). Testing the moderating effect of parent-adolescent communication on the acculturation gap-distress relations in Korean American families.

- Journal of Youth Adolescence*, 40(12), 1661-1673.
- (29) Chung, R. H. G., Kim, B. S. K., & Abreu, J. M. (2004). Asian American Multidimensional Acculturation Scale: development, factor analysis, reliability, and validity. *Cultural Diversity Ethnic Minority Psychology*, 10(1), 6680.
- (30) Olson, D. H., McCubbin, H. I., Barnes, H., Larsen, A., Muxen, M., & Wilson, M. (1982). Family inventories. Unpublished manuscript, University of Minnesota.
- (31) Achenbach, T. M., & Rescorla, L. A. (2001). Manual for the ASEBA school-age forms & profiles. Burlington, VT: University of Vermont, Research Center for Children, Youth, & Families.
- (32) Kho, C., Main, A., Chung, S., & Zhou, Q. (2019). Intrusive parenting in Chinese American immigrant families: Relations with cultural orientations and children's adjustment. *Asian American Journal of Psychology*, 10(4), 341-350.
- (33) Roosa, M. W., Liu, F. F., Torres, M., Gonzales, N. A., Knight, G. P., & Saenz, D. (2008). Sampling and recruitment in studies of cultural influences on adjustment: A case study with Mexican Americans. *Journal of Family Psychology*, 22(2), 293-302.
- (34) Chen, X., & Lee, B. (1996). The cultural and social acculturation scale (child and adult version). London, ON: Department of Psychology, University of Western Ontario.
- (35) Robinson, C. C., Mandelco, B., Olsen, S. F., & Hart, C. H. (2001). The Parenting Styles and Dimensions Questionnaire (PSDQ). In J. Touliatos, B. F. Perlmutter, & G. W. Holden (Eds.), *Handbook of Family Measurement Techniques* (Vol. 3, pp. 319-321). Thousand Oaks, CA: Sage.
- (36) Rhee, S., Chang, J., & Rhee, J. (2003). Acculturation, communication patterns, and self-esteem among Asian and Caucasian American adolescents. *Adolescence*, 38(152), 749-768.
- (37) Prinz, R. J., Foster, S., Kent, R. N., & O'Leary, K. D. (1979). Multivariate assessment of conflict in distressed and non-distressed mother - adolescent dyads. *Journal of Applied Behavior Analysis*, 12(4), 691-700.
- (38) Chung, Sara., Zhou, Qing., Kho, Carmen. & Main, Alexandra., (2021). Parent-child conflict profiles in Chinese American immigrant families: links to sociocultural factors and school-age children's psychological adjustment. *Family process*, 60 (1), 169-185.
- (39) Evans, G. W., Kim, P., Ting, A. H., Tesher, H. B., & Shannis, D. (2007). Cumulative risk, maternal responsive-ness, and allostatic load among young adolescents. *Developmental Psychology*, 43(2), 341.
- (40) Peterson, J. L., & Zill, N. (1986). Marital disruption, parent-child relationships, and behavior problems in children. *Journal of Marriage and the Family*, 48(2), 295-307.
- (41) L. G. Castillo, M. P. Zahn, & M. A. Cano. (2012). Predictors of Familial Acculturative Stress in Asian American College Students. *Journal of College Counseling*, 15(1), 52-64.
- (42) Castillo, L. G., Conoley, C. W., Brossart, D. F., & Quiros, A. E. (2007). Construction and validation of the Intragroup Marginalization Inventory. *Cultural Diversity and Ethnic Minority Psychology*, 13, 232-240.
- (43) Lee, R. M., Choe, J., Kim, G., & Ngo, V. (2000). Construction of the Asian American Family Conflicts Scale. *Journal of Counseling Psychology*, 47, 211-222.
- (44) Tropp, L. R., Erkut, S., García Coll, C., Alarcón, O., & Vázquez García, H. A. (1999). Psychological acculturation: Development of a new measure for Puerto Ricans on the U.S. mainland. *Educational and Psychological Measurement*, 59, 351-367.
- (45) Fuertes, J. N., & Westbrook, F. D. (1996). Using the Social, Attitudinal, Familial, and Environmental (S.A.F.E.) Acculturation Stress

- Scale to assess the adjustment needs of Hispanic college students. *Measurement and Evaluation in Counseling and Development*, 29, 67-76.
- (46) Yoo, Cynthia S. M., & Miller, Lynn D. (2011). Culture and Parenting: Psychological Adjustment among Chinese Canadian Adolescents. *Canadian journal of counselling and psychotherapy*, 45(1), 34.
- (47) Ryder, A.G., Alden, L., & Paulhus, D.L. (2000). Is acculturation unidimensional or bidimensional?: A head-to-head comparison in the prediction of demographics, personality, self-identity, and adjustment. *Journal of Personality and Social Psychology*, 79, 49-65.
- (48) Rohner, R. P., & Khaleque, A. (2005). Parental control scale (PCS): Test manual. In R. P. Rohner & A. Khaleque (Eds.), *Handbook for the study of parental acceptance and rejection* (pp. 107-135). Storrs, CT: Rohner Research Publications.
- (49) Rohner, R. P., & Khaleque, A. (2005). Personality assessment questionnaire (PAQ): Test manual. In R. P. Rohner & A. Khaleque (Eds.), *Handbook for the study of parental acceptance and rejection* (pp. 187-227). Storrs, CT: Rohner Research Publications.
- (50) Park, Y. S., Vo, L. P., & Tsong, Y. (2009). Family affection as a protective factor against the negative effects of perceived Asian values gap on the parent-child relationship for Asian American male and female college students. *Cultural Diversity and Ethnic Minority Psychology*, 15, 18-26.
- (51) Kim, B. S. K., & Hong, S. (2004). A psychometric revision of the Asian Values Scale using the Rasch model. *Measurement and Evaluation in Counseling and Development*, 37, 15-27.
- (52) Epstein, N. B. Bishop, D., Ryan, C., Miller, & Keitner, G., (1993). The McMaster model view of healthy family functioning. In Froma Walsh (Eds.), *Normal family processes* (pp. 138-160). New York: Guilford.
- (53) Floyd, K., & Morman, M. T. (1998). The measurement of affectionate communication. *Communication Quarterly*, 46, 144-162.
- (54) Booth-Butterfield, M., & Booth-Butterfield, S. (1990). Conceptualizing affect as information in communication production. *Human Communication Research*, 16, 451-476.
- (55) Barnes, H. L., & Olson, D. L. (1982). Parent-adolescent communication scale. In D. H. Olson et al. (Eds.), *Family inventories: Inventories used in a national survey of families across the family life cycle* (pp. 33-48). St Paul: Family Social Science, University of Minnesota.
- (56) Smokowski, PR., & Bacallao, ML. (2011). *Becoming bicultural: Risk, resilience, and Latino youth*. New York: New York University Press
- (57) Szapocznik J., Santisteban D., Rio A., Perez-Vidal A., Kurtines WM., & Hervis OE. (1986). Bicultural effectiveness training (BET): An intervention modality for families experiencing intergenerational/intercultural conflict. *Hispanic Journal of Behavioral Sciences*, 6. 303-330.